



第三十号

令和2年度号 (10月10日発行)

新任のご挨拶



会長 中谷 基
(西高20回生)

このたび令和元年11月に行われました総会におきまして、会長の任を承りました。

大阪、神戸、京都と毎年交替で総会及び懇親会を重ねていましたつづじヶ丘同窓会関西支部ですが、会員数の減少と高齢化で隔年開催となり今日に至っております。

本来、会長というのは先輩諸氏にお任せして実践部隊としてお手伝いをするつもりでおりましたが、諸先輩方の高齢化、体力の衰えを目の当たりにする中で今までお世話いただいたご恩をお返しする意味においても、思い切ってお引き受けることにいたしました。

前任の中村 浩さんには平成28年よりご苦労いただき関西支部廃止の危機を乗り越えていただきましたが、関西在住の卒業生が少ない中でのご苦労だったと思います。

現在のコロナ禍においては、先行き不透明な状態で

つづじヶ丘同窓会
関西支部発行
連絡先: 075-323-6633
E-mail address:
nakaya@motoi.co.jp
URL: http://td.kansai.sakura.ne.jp

なるものが業者から発刊されましたので、少ない関西在住の卒業生を見つけ出す作業を進めようかと思っております。

個人情報保護法が成立した2003年以降、その類の名簿もなかなか出回らなくなりましたが法律の解釈、運用を考えての発刊でしようし会員を増やす一助にはなると思いますが、この情報からの勧誘は法的な面をクリアしながら慎重に行わねばなりません。

懐かしく思いながらページをめくっていきますと、私の名前と姉の名前を見つけたのですが父も教師として在籍していましたので「物故者」としての掲載がありました。

同級生の名前と顔の記憶は一致しませんが、懐かしくよみがえってくるものです。

「同窓会適齢期」という言葉があるのかどうかはわかりませんが、若いうちは全く興味もなかったのに、年を取ってくると故郷の思いとともに参加してみたくなるのが同窓会です。

私は京都に来てから同窓会の存在を全く知らずにおりましたが、参加してみても諸先輩の優しき、温かさに触れてそれ以降できる限り出席をして親睦を深めてまいりました。

これから若い会員を増やすとともに諸先輩にお世話になったことを思い出しながら会の運営にあたっていききたいと思えます。

はありますが疫病の終焉が見えてきた時点で新しい体制を整え、新会員の増加を図る方策を考えていかねばと思っております。
先日、令和2年度版 つづじヶ丘同窓会会員名簿

特別企画

しばらくは幹事になっていただいている先輩諸氏や歴代会長の富士様、中村様に教えていただきながらのスタートになるとおもいますが、会員皆様にはご協力の程よろしくお願い申し上げます。

『「つづじヶ丘同窓会」関西支部(関西つづじヶ丘同窓会)あるいはその前進の同窓会に入会した頃』と題して、毎号3名から4名の会員に順次原稿を依頼して掲載するものです。本年度はその3回目です。本年度につづぎ来年度以降も順次原稿執筆をお願いいたしますので、よろしくご願ひ申し上げます。
原稿執筆にあたり、次の様な要領で執筆するようお願いいたしました。

① 「関西つづじヶ丘同窓会」の総会に初めて出席した時期はいつ頃ですか。具体的にお書き下さい。(昭和・年、昭和・年頃、など。西暦でもかまいません)

② そのきっかけは、どんなことでしたか。

③ 会長は、どなたでしたか。

④ その頃の思い出をお書き下さい。(この会に出席した時の感想、思い出話など、何でも結構です)

右記の質問に沿って、箇条書きにしたもの、あるいは、全体をまとめた文章でも結構です。文字数は問いません。

本号では、山村 勉(西高3回生)、栗山元宏(西高8回生)、小林敏行(西高10回生)の三名の方々の原稿を掲載いたしました。



『つじヶ丘同窓会』関西支部(関西つじヶ丘同窓会)あるいはその前進の同窓会に入会した頃』

その3

函館西高同窓会関西支部 遙かなる思い出

山村 勉(西高3回生)

関西は第二の故郷 函館西高同窓会関西支部は心の故郷だ。もう30年もなるが、国際化と緑の博覧会が大坂鶴見緑地にて開かれた。1990年、平成になつて間もなくのこと。当時、私は東京の会社に勤めていた。その東京の会社が何の思惑か大阪のこの花博に出展することになった。花と緑の立体都市庭園を山のエリアに造つたのだ。私はその出展館の運営に当たることになった。大阪の人は花好きなのか、2600万人もの入場者があつた。千里の大坂万博6400万人に及ばないが盛況であつた。楽しい思い出だ。終わって東京に帰れるのかと思つたらそうはならなかつた。そのまま大阪の関連会社に出向になった。今度は御堂筋本町である。今も会社はそこにある。住まいは神戸の岡本にした。晩年に至つて初めて関西に暮らす。それは10年以上になった。70歳ちかくまでだ、思い出は深い。西高同窓会とは、関西とは、ここから始まる。

平成3年か、関西支部に出たのは。きっかけは誰かに云われたのだろうが、思いだせない。会長は桜井先生だったと思う。いかにも上品で綺麗なお方、音楽の先生で青柳小学校にもいらつしやつたと伺つたように思い、親しみを感じた。このような先生がどうして関西まで来られたのかと密かに思ったものだ。それは片立高女の先輩の方にも西高の卒業生にも言えること

なのだが、関西支部の会らしく九州は熊本、牛深から見えていた後輩がいたように思う。牛深は熊本から延びる半島の一番南端だ、どうしてそこに卒業生がと、女性である。聞きそびれたが、故郷を遠くにするそんな人生の来し方を考える。同窓会にはよく出たように思う。上六のホテルは何度か、京都の会にも出席している。曾根崎の会では、同期の内山みちるさんと一緒になった。八尾に住んでいるという。ご夫君とも小、中学の同期生で親しかったので、会社も近くなのでよく訪ねたものだ。今、お二人は函館に帰り八幡様の傍に住んでいる。

同窓会は同期の富士君がその後会長を引き継ぎ、精力的に運営に当たつてくれた。幹事会を設け毎月梅田の丸いホテルで打ち合わせ会を開いていた。私も何度か顔をだした。現会長の中村会長もその有力なメンバーであつたと思う。まだ気鋭の学者であつたと憶えている。今、富士君に代つて同窓会を盛んにしてくれている。大阪を離れてもう20年にもなるうか、その私にもこうして声をかけてくれる。(編集者註：本年4月より、会長は中谷 基新会長に引き継ぎ)

関西に暮らし始めて、私はすっかり関西の風土が好きになつた。夙川、芦屋、御影と続く、六甲山の麓に広がる南傾斜の住宅街、神戸の街、御堂筋の整つたビル街、むろん京都の清水寺、南禅寺の櫻、紅葉、奈良の古い仏様。しかし、何と言つても休日の度訪れた、大和、飛鳥の古墳、御稜の古い日本の姿、三輪山の万葉の里。私の人生の大きな財産となつたのだ。これも花博に派遣してくれた会社のお陰ではあるが、関西支部の皆さんとの交流の賜物であると懐かしく感謝しているところです。では長文、駄文、多謝します。

函西高校同窓会関西支部との出会い

栗山元宏(西高8回生)

大学卒業後、昭和38年・39年ごろから「西高卒業生の関西での集い」に参加していた。この会は石原正さん(西高5回生)が中心となつていた。「すずらん会」との合同開催の「関西つじヶ丘同窓会」の総会に初めて出席した時期は、昭和40年代の中ごろであつたと記憶している。そのきっかけは、当時同居していた私の姉(高女35回生、昭和18年卒)の勧めで参加したのを憶えている。

その時の会長は、寺村初瀬さんで「すずらん会」の会長からこの合同の会でも会長に就任されていた。寺村さんあるいは御家族のどなたかが大阪でも名門の北野中学、後の北野高校の教育関係者とのことであつた。

その後、会の位置づけが「つじヶ丘同窓会 関西支部」となり、これが正式名称となつた。平成26年に関西を離れて北海道に転居するまで結構この会への出席率は他の方々と比べても高かつたと思つている。現在は函館に移り住んでいる。

関西つじヶ丘同窓会と私

小林敏行(西高10回生)

平成12年秋、郵便物の中に「函館西校つじヶ丘同窓会関西支部総会・懇親会」の案内状があつた。何気なく読んでいるうちに一度出てみようかなと思ひ「出席します」と返信した。いつの頃から案内状がくるようになったか記憶にないが、それまでは見ても無視していたように思う(ごめんさい)。今回その気になったのもこれといったきっかけがあつたわけではない。平成8年に30余年勤

務した製薬会社を退職し損害保険会社に再就職、翌年現在の住い兵庫県川西市に転居、次第に親しく付き合える友人や知人が減ってきたための「人恋しさ」があったのかな?と今にして思う。当日会場の大坂北浜ライオンズホテルに着くと会長(当時)の富士先輩をはじめ皆さんに笑顔で迎えていただいた。出席者は30名ほどで高女の方も4〜5名いらつしやつたと思う。和気あいあいアットホームな雰囲気緊張もすぐにほぐれ楽しいひと時を過ごすことができた。それ以来毎回出席して現在に至る。

特に印象深いのは平成16年大坂アークホテルでの総会。高女25回生の今は亡き母(当時愛知県豊橋市在住)が私のもとに来ていた折特別参加させていただいた。大歓迎を受け大喜びで帰っていったのを今も思い出す(本当にありがとうございました)。

ここで同窓会の話から離れ、私の弱点のひとつ「方向音痴」について触れてみたい。日本自動車連盟(JAF)の機関紙「ジャフメイト」に作編曲家「松任谷正隆氏」の「僕はかなりの方向音痴」と書き出された文が載っていた。これを読んで私も同類だと何となく安心した(勿論他のすべてにおいて私には及びもつかないが)。ゴルフを嗜んでいた現役のころ、初めて行ったゴルフ場では帰り道に苦労した。行きは幹線道路からゴルフ場まで「○○GC」と矢印のついた案内標識があるが、帰路にはほとんど標識がなく幹線道路に出るのに迷ったものだ。又、車で1時間ほどの隣町へ出かけ新興住宅街のスーパーに立ち寄った際、家に帰ろうと5分程走ったら今出たスーパーの前に、もう一度走り始めて5分程、行く手にまた先ほどのスーパーの看板が、気を取り直して走り出しようやく勝手知ったる道に出た。今はカーナビが大いに助けてくれてるものの方向音痴の素質は健在、高齢ドライバーの私自身少々遠回りはしてもくれぐれも逆走などしないよう気が

を引き締めて安全運転に心がけ、もうしばらく運転は続けたい。(ここまで読んでくださった方、つまらない話にお付き合いいただきありがとうございます)。

最後に、先輩諸氏が育て長年継続してきた関西つつじヶ丘同窓会が会員減で存続の危機に立たされていますが、中谷新会長のもと若手卒業生の新入会も期待しつつ、アットホームな素晴らしい本会が1年でも長く続くことを念じ終わります。

本会記事

《令和元年度総会の開催》

令和元年11月24日(日)12時30分より、大阪市淀川区西中島5丁目新大阪ワシントンホテル プラザにおいて「つつじヶ丘同窓会」関西支部の総会および懇親会が開催された。

来賓として同窓会本部から能登谷公会長(西高18回生)が出席される予定であったが、体調不良のため急きよ欠席。東京支部からは佐藤雅英副会長が出席された。

会員出席者は、富士昭一(西高3回生)、長澤清司(西高3回生)、橋本輝也(西高5回生)、佐藤正征(西高7回生)、牧省三(西高7回生)、岡本忠篤(西高8回生)、中村浩(西高9回生)、小林敏行(西高10回生)、水島勝寿(西高11回生)、横内省三(西高13回生)、田端冴子(西高14回生)、北村純子(西高17回生)、中谷基(西高20回生)、魚橋弘子(西高20回生)、武友加代子(西高23回生)、富士博司(西高26回生、関西支部旧会員)、高谷ひさえ(西高34回生)、の17名であった。出席予定の石原貞夫さん(西高3回生)は体調不良のため急きよ欠席された。

本年度のこの総会・懇親会は2年毎の開催年度に当たっている。2年前の総会で懸案となっていた新会長を中谷基さん(西高20回生)に引き受けて頂き、この今回の総会において全会一致で承認された。会の運営に関しては幹事会をスリムにし、中谷新会長を中心に新体制で臨むことが提案された。若い新会員の入会が会の発展の鍵をにぎっている。



平成31年・令和1年度収支会計報告		自 平成31年 4月 1日 至 令和 2年 3月31日	
収入	金額	支出	金額
平成30年度から31年度への繰越金	236,247	幹事宛通信費 礼状 郵送料など (計12通)	856
同窓会本部からの補助金	30,000	レンタルサーバー ライト サービス利用料	1,867
受取利子	2	プリンター用紙 A4版 500枚	257
総会会費 8,000.- x 17人	136,000	会誌「つつじヶ丘だより」600部 印刷代	9,720
ご祝儀 (東京支部より)	10,000	会誌送料 54通 @82x54 (総会案内状 含)	4,428
寄付金 2件	4,000	会誌送料 旧会員宛 6通 @84x6	504
		総会・懇親会費用	
		総会出欠用ハガキ @63x42通	2,646
		来賓案内状郵送料	328
		総会・懇親会費 (新大阪ワシントンホテルプラザ)	130,701
		来賓返礼用 お菓子	2,954
		能登谷公会長 弔電	2,013
		令和2年度への繰越金	259,975
収入 計	416,249	支出 計	416,249

《幹事会より》

平成30年(2018年)秋から令和元年(2019年)11月関西支部の総会が開かれたまでの1年間の幹事会は左記のとおりである。

・平成30年11月2日:
新設校開校に伴う同窓会の在り方について審議。報告事項としては、10月10日に道議会で新設校の開校が決まり、新設校名が「北海道函館西高等学校」となった件。および「つつじヶ丘だより」(平成30年度版)発送。

・平成31年(令和1年)1月18日:
「つつじヶ丘だより」(令和1年)の編集方針、原稿執筆依頼など。2年毎に開催する総会・懇親会の日程・開催会場についての審議。

・令和1年7月28日: 審議事項としては、会誌「つつじヶ丘だより」(令和元年版)の編集・発行についての最終案、および本年度に開催する総会・懇親会の開催日および開催場所。報告事項としては令和1年(2019年)度会計報告。

・令和1年11月24日、総会当日:
臨時幹事会を召集。中村から会長辞任と新会長の改選が提案された。2年前の総会でも同様の提案がなされたが新会長の成り手が無く廃案となった。今回は総会直前に臨時幹事会を召集した。同窓会本部、東京支部、および札幌支部でも次の若い世代の新会長が就任あるいは就任予定なので関西支部においても世代交代が望ましいとの観点から、ほぼ中谷基さんに絞り込み、総会に提案した。結果として総会全会一致で新会長就任が了承された。

【追記】

就任間もない同窓会本部の能登谷公会長が、平成2年2月10日に急逝された。心から御冥福をお祈り

申し上げる。なお、当分の間、新会長が正式に決まるまで毛利悦子副会長(西高16回生)が会長代行を務められるとのことである。

現時点での各支部の新任の会長は次の方々である。

東京支部、折田信一様(西高18回生)

札幌支部、竹林 進様(西高17回生)

なお、例年であれば、1年間に少なくとも3・4回は幹事会が開催され、総会の無い年には近隣へのピクニックなどの行事などが催されるのであるが、コロナウイルス感染症拡大のためすべて中止となっている。一刻も早くこのコロナウイルス禍の終焉を願っている。

編集後記

特別企画「つつじヶ丘同窓会」関西支部(関西つつじヶ丘同窓会)あるいはその前進の同窓会に入会した頃も、今年で3年目に入った。会員の皆様には、順次執筆を依頼するので、よろしく。その他、随想などの投稿をお待ちしている。

中谷 基新会長の新体制のもとで関西支部も新たな発展をと考えているうちに、コロナウイルス禍騒ぎで連絡のための幹事会も持てない状況である。取りあえず、この会誌の編集・発行は中村、小林、水島が担当した。

~~~~~  
シリーズで連載中の『つつじヶ丘同窓会』関西支部(関西つつじヶ丘同窓会)に入会した頃』にぜひご応募ください。その他の記事・随想の類も大歓迎です。

連絡先: E-mail: hiro@osakazai.jp  
または電話06・6852・8274 または携帯090・6235・8274